

中国のパーソナルファイナンスにおけるビッグデータの活用

京都学園大学 李立栄

中国のフィンテックは、インターネット企業が電子商取引決済プラットフォームにおいて金融商品販売を行うなど、さまざまな分野をカバーしながら急速に拡大した。とりわけ、ビッグデータを活用したさまざまなサービスにおいてユーザーの信用リスク評価を低コストかつ迅速に行うことが可能になり、多様なサービスを有機的に展開できるようになった。

本研究では、中国のパーソナルファイナンスに焦点を当てて、金融分野でのビッグデータ活用事例をもとに考察を加える。中国を研究対象とするのは、同国がビッグデータ活用に適した環境にあるからである。すなわち、インターネット利用人口が世界最大であることに加え、スマートフォンを使用した個人向けサービスの利用が盛んであり、個人のデータ蓄積が他国より圧倒的に速い。また、巨大なプラットフォーム企業 BAT（百度、アリババ、テンセント）が存在するため、様々な分野のデータを組み合わせることが容易である。そのため、ビッグデータの活用において先進的な取組みが先行している。

世界のフィンテックのなかでも、電子商取引最大手のアリババグループが豊富なデータ活用が可能なのは、アリババの電子商取引とそのプラットフォームにおいて膨大なビッグデータの収集・連携が可能なのが大きく寄与している。中国は個人データに関する規制をはじめ、業務に関する規制が比較的緩やかであるといわれており、先進的な実験が可能であることなどが背景として指摘できる。

本報告では、中国のフィンテック業界をリードするアリババグループのビッグデータを活用したパーソナルファイナンス分野での取り組みについて紹介する。アリペイが広範囲な業務との連携が可能であった背景について考察するとともに、今後の規制監督の方向性と課題についても触れたい。

キーワード：中国のフィンテック、ビッグデータ、金融イノベーション